

【高等学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)  
**A**: 十分達成できている  
**B**: おおむね達成できている  
**C**: やや不十分である  
**D**: 不十分である

学校名	佐賀県立 唐津商業高等学校定時制
-----	------------------

1 前年度 評価結果の概要	① 年間を通し計画的に小テスト実施し、基礎学力の向上と日々の学習習慣の定着を促したが、全生徒への学習習慣の定着には至っていない。 ② 商業系検定へ積極的に取り組む生徒が増加した。また、就職希望者に対する綿密な個別相談を実施した結果、生徒の就職意識が例年に比べ高かった。 ③ キャリア教育として専門学校および企業訪問を行った結果、生徒の勤労観や職業観が深まった。全体的にアルバイト就労も積極的になってきた。 ④ 給食指導や食と健康についての講演会を通して、食と健康のつながりを理解できた。給食の喫食率も計画目標を達成できた。
2 学校教育目標	生徒一人ひとりの能力を伸ばし、ビジネスの知識と技術を習得させて地域や経済社会の発展に寄与しうる、心豊かで心身ともにたくましい人材を育成する。

3 本年度の重点目標	① わかる授業の実践に心がけ、基礎学力の向上に努める。 ② 資格取得へ積極的に挑戦させ、学習意欲の更なる向上を図る。 ③ アルバイト等の就労を通して、職業観や勤労観を育成する。 ④ 社会人として守らなければならないルールやマナーを理解させ、遵守する姿勢を育成する。 ⑤ 食育の充実に努め、望ましい食習慣を養うことにより心身ともに健康な生徒を育成する。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目			中間評価		5 最終評価		主な担当者				
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	中間評価		最終評価						
			進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		評価	意見や提言		
●学力の向上	○基礎的な文字力・計算力の定着	○文字力テスト、計算力テストを年間各7回実施	B	・漢字テストについては4級レベルから準2級レベルまでの漢字の意味の理解や会話や文章の中で適切に使う能力を養われる。 ・計算力テストについては個別指導も含め、基礎的数学技能を身に付けられるように指導する。	B	・文字力テスト、計算力テストとも当初計画通り実施できている。現時点での生徒の取り組み状況としては努力が不足していると思われる生徒が数名見られるので奮起を促していきたい。	B	・目標を持った取り組みで、意欲を高めていくことが必要であると思う。	教務主任 各教科主任 各担任		
	○資格取得の奨励と合格率の向上	○検定試験を積極的に受験するよう促し、卒業までに簿記、ビジネス情報、情報処理の3つの検定試験で3級以上の取得率80%以上	A	・生徒の資格取得に対する意欲を喚起するために、個別指導を充実させる。 ・資格取得による進路希望実現の道を示す。 ・受験させるからには必ず合格させるという意気込みと周到な指導計画を立案する。	B	・今年度の2年生において、情報処理の検定では3級の取得率80%以上達成できた。ビジネス文書の検定では3級以上の取得率80%以上を達成でき、2級に挑戦した4名も合格できた。簿記検定については1月の検定試験に向け指導を行っている。	B	・簿記検定については3級の合格率が29%と低く、試験を欠席する生徒も多かった。2級は合格率57%と健闘した。次年度は合格していない生徒は今一度同じ級の取得を目指し、合格者は上位級に目標を定め奮起させたい。	教務主任 各教科主任 各担任		
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自然と挨拶を交わらせる生徒を90%以上	B	・登下校時を中心に教員側から挨拶十声かけを積極的に行い、人とのふれあいの楽しさを伝え、生徒間に浸透させる。	B	・教員側からの積極的な声かけや生徒会を中心とした挨拶運動を行った結果、80%以上の生徒が自然と挨拶が出来るようになった。今後も継続して取り組むことで、目標は達成できると思われる。	B	・年間を通して、教員側からの積極的な声かけや生徒会を中心とした挨拶運動を行った。また、各種集会や講演会などでも挨拶の徹底を呼びかけ、85%以上の生徒が自然と挨拶が出来るようになった。	生徒指導主事 各担任		
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの防止への取組について組織的に対応できていると回答した教員80%以上	A	・いじめに関する対応についてのマニュアルの作成・見直し・周知を実施 ・いじめ対応に関する研修・会議を年間2回以上行う。 ・生徒情報交換会を月に1回以上実施する。	A	・生徒情報連絡会を月1回実施し、職員間の情報交換に努めることが出来た。 ・いじめ対応に関する研修・会議を前期は、全日制の職員とともに実施できた。コロナ禍による県の研修会が中止されたので、12月中旬に校内で全定合同のいじめ防止対策研修会を予定している。	A	・生徒情報連絡会を毎月1回実施し、職員間の情報交換に努めた。全生徒の口頃の心の変化など説明を受けることにより、よりきめ細かく見守りを行うことが出来た。いじめ対応に関する研修・会議を予定通りに実施できた。いじめの防止への取組は早期発見に努め、迅速に、組織的に対応し、数値目標を達成できた。	保健主事 教育相談係 各担任		
	◎志を高める教育	○各学年、郷土について学ぶ時間を年間3時間(前期2時間、後期1時間)講演会)実施し、年度末のアンケートで「佐賀県に誇りや愛着を感じる」と回答する生徒70%以上	B	・県教委作成の郷土学習資料『佐賀語』を活用し、4年間で全4章の内容に目を通し、生徒が興味を持って取り組めるように主題学習的な授業に取り組む。	B	・はじめてのまなび応援事業を利用して2月5日に「さかの偉人さん塾」を開催する予定にしている。そのための打合せを進めており、3人の題材の要求をしている。郷土について学ぶ時間は、後期試験後に集中して行うための準備を進めている。	A	・「さかの偉人さん塾」は「大隈重信」「原野金吾」「奥村五百子」の事をエピソードを中心に多種形式などで分かりやすく(話をしていた)ため、生徒アンケートでも講演内容の満足度は、「大変良かった」が75%、「良かった」が25%で、高い満足度を与えることができた。 ・年度末のアンケートで「佐賀県に誇りや愛着を感じる」と回答した生徒は83%で、設定目標を超えることができた。	A	・生徒自身に負うところが大きいと感じる。 ・まず、唐津について学び、次に佐賀県全体に関心を広げていくやり方がよいと感じる。	佐賀を誇りに思う教育推進 事業係
●健康・体づくり	②「望ましい生活習慣の形成」	○十分な睡眠がとれている生徒65%以上 ○食前の手洗い習慣が身についた生徒80%以上 ○自分で健康だと感じる生徒50%以上	B	・生活状況等調査を実施する。 ・保健だよりでの啓発 ・掲示物での啓発 ・保健指導の実施	B	・十分な睡眠がとれていると自覚する生徒は36%しかいなかった。食前の手洗いについては77%が習慣となっていると回答した。また、自分で健康だと感じる生徒は52%と目標を達成できた。感染症予防のための手洗い指導を充実させ、健康についての意識が保てるよう継続指導していきたい。	B	・年間を通して保健だより等での啓発、保健指導を行った。十分な睡眠がとれていると自覚する生徒は34%と12月の方が低率であった。食前の手洗いは88%が習慣となっていると目標を達成した。自分で健康だと感じる生徒は70%と目標を大きく達成した。	保健主事 養護教諭		
	③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○給食の喫食率75%以上	B	・給食だよりの発行 ・統計を基に、各月や各学期毎の喫食率の結果を周知し、意識付けをする。 ・教科等と連携して、食と健康に関する内容を取り扱い、指導する。	B	・給食の喫食率は、全体では63.5%であった。後期の三者面談時に、喫食率の低い生徒に担任より指導を行った。前期のHR活動で「夏バテをしないで夏を乗り切るために」というテーマで食事の大切さを指導した。食事に関する知識理解はできているが、実践が不十分である。今後も意識が高まるよう継続して指導をしていきたい。	B	・年間を通して給食だより等発行し、給食指導を給食時間に行った。学校開放の際に、保護者対象の給食試食会を計画したが、参加はなかった。後期のHR活動では、外部講師による食の指導を行い、生徒たちは食の歴史に興味を示していた。また、全職員と連携して給食摂取の呼びかけを行い、徐々に喫食率の向上が見られたが、61.2%と目標には至らなかった。今後も継続して指導をしていきたい。	B	・喫食率を上げるための指導を継続して欲しい。 ・三者面談の際に親だけで給食の試食会を実施すればよいと思う。	学校栄養職員 保健主事
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間(1ヶ月80時間以下)を遵守する。	A	・学校閉庁日・定時退勤推進日の設定 ・業務記録を具に点検し・観察を行い、意識を持って時短に取り組む。	A	・学校閉庁日は4日間実施した。ほぼ毎日全員が定時に退勤できている。時間外在校勤務の時間短縮が実現できている。	A	・時間外在校勤務時間は各月で全職員80時間以下を実現できた。学校閉庁日は4日間実施し、年休の積極的取得により、時短勤務が実現できた。	A	・勤務時間の短縮は管理職の努力次第だと思う。	管理職
	○職員会議、運営委員会の縮減・効率化	○職員会議、運営委員会の回数及び時間を昨年度より減少させ、会議の効率化を図る。	A	・年間計画による回数の設定、資料の事前配付による諸会議の時間削減やコミュニケーションを円滑にし、会議の効率化を図る。	A	・運営委員会は定例とせず、必要な場合のみ行っている。職員会議も1回の実施であり、少ない回数ではあるが、事前の資料確認や職員とのコミュニケーション力の向上で効率化ができていた。	B	・定例の運営委員会はなく、必要に応じて実施した。職員会議では議題の精選を行い、定時制のみの職員会議は年間8回と昨年並みの回数であった。会議時間の削減もできており、効果的に実施できた。	B	・今後も教職員のワークバランスを大事にして欲しい。	管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	中間評価		最終評価		主な担当者				
			進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		評価	意見や提言		
○進路指導の充実	○職業観・勤労観の育成	○アルバイトの就労率を80%以上にする。	B	・在学生生徒の就労先訪問を行い、雇用主と連携して、定着指導を行う。 ・長期休業中を利用し、未就労者にインターンシップを経験させ、就労意欲を高める。	B	・アルバイトは1年生を中心に就労している生徒が増えている。就職・進学4年生の状況は、就職で内定が2人。進学で1人が決定。残る3人の進路先がこれからの課題である。	B	・アルバイトの就労率は86%で、どの生徒も熱心に取り組んだ。4年生の進路決定は、ほぼ決まった。未定の生徒もこれから社会経験を積んで、頑張ってもらいたい。	B	・市役所等とも連携し、安心して働きながら登校できる環境をつくって欲しい。 ・生徒本人の希望を十分に聞き取っていただき、進路実現に繋げて欲しい。	進路指導主事

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・学業面では教職員が生徒に寄り添いながら基礎学力の向上を目指し、個別指導等を根気強く重ね、生徒もその指導に応えようとする姿勢が見られた。 ・生徒会活動も生徒主体で積極的に行われるようになった。生徒たちの居場所の確保にも繋がり、自己有用感を持つことができる生徒が増えた。 ・卒業後の進路については生徒が不安を抱えないように、キャリア教育の一層の促進と進路決定に向けた学校の組織的な取り組みが必要である。
----------------	--